

聞き手に想像を促す相互行為的手続き

-コ系指示表現を使って-

Interactional procedure prompting listener's imagination -focusing on uses of the Japanese proximal spatial expressions-

梅村 弥生
Yayoi Uemura

†千葉大学融合理工学府博士後期課程

Chiba University Graduate school of Science and Engineering

ume5184@chiba-u.jp

概要

仕事の現場では、社員らが図面や作りかけの部品を指し示しながら話し合う場面を頻繁に見かける。彼らはコ系指示表現を用いて、指さしや視線を配分しながら、実際にはそこには存在しない「水の流れ」や「製造機の故障」等について話し合っている。本研究は、最近の指示詞研究の分類枠を参考にしながら、相互行為の視点から、そこに「存在しないもの」がどのようにして「存在するもの」として参与者間で共有されるのかを分析する。

キーワード：コ系指示表現、会話分析、相互行為

1. はじめに

金水 (1999, p. 77) は、日本語指示詞の3系列(コソア)はいずれも直示用法と非直示用法があるとした上で、典型的な直示とは、指差しや眼差し等によって焦点化できる話し手に近い眼前の空間に在る対象を指す場合とした。さらに、バーのマッチを取り出して「この店に行こう」と友人を馴染みの店に誘うときの「この」を「間接直示」とし、「マッチ→店」のように、マッピング・ルールを介在させることによって、実際にはそこに存在しない対象にたどり着くとした。そして、直示された対象(マッチ)は、真の対象

(店)を代表し、真の対象と臨時的に同一視されるとした。臨時的にということは、本来は対象(店)と対象の知覚(見ること)との区別が前提となっている。そこで、疑問になるのは、誘った人は、どのようにして同伴者にマッチを見せて誘ったのか、互いに見ているマッチと店は、その場では別物なのだろうか。

実際に工場で録画・録音された会話を観察すると、参与者らは、眼前の部品や図面を指差しして、互いに相手をモニターしつつ、コ系指示詞を伴う発話をしながら、そこには存在しない「水の流れ」や「製造機の故障」があたかもそこに在るかのように語り合っている。し

かも、どれひとつ欠けても成立しない状況を作り出している。本研究では、指示詞研究の枠組みを参考にし、相互行為の視点から、何かを「見て」「指して」「コ系指示詞」を用いた活動を相互行為の視点から分析する。

本項の構成は次の通りである。続く第2節では、先行研究を参照しながら分析の枠組みを述べる。第3節では取り上げる現象を説明する。第4節では、本稿で提示した事例を含めた研究全体の構成について説明してまとめとする。

2. 先行研究と分析の枠組み

2.1. 日本語指示詞の研究枠組み

指示詞の使い分けを説明するものとして、伝統的には人称区分説と距離区分説がある。しかし、どちらも現実との矛盾点があることから、近年は、話し手や聞き手の認知の問題として解明しようとする理論が現れた。そのひとつが談話管理理論である(金水・田窪, 1990, 田窪・金水, 1996)。堤 (2002, p. 45)によると、この理論には(1)「聞き手の知識」を排除する、(2)複数の心的領域を設定する、といった2点が特徴とされ、特徴(2)は、先の「間接直示」にも窺われる。小川・野澤 (2015, p. 120)は、指示詞が発話場面(いつ、どこで、誰が誰に対して)から切り離されると、話者の意図が解釈できなくなるという問題意識から、Levinson (2004)に従い、日本語指示詞の用法を直示と非直示の2つに分けた。そして、「指示対象の所在」に焦点を当てた現場指示と観念指示という以下のような二層モデルを構築した(小川・野澤, 2015, p.127)。

(i) 現場指示用法：

発話時において主体の周囲に対象物が存在し、感覚器

¹ 2つの企業(在中国日系企業及び国内の企業)において合計約45時間の話し合い場面を収録した。

を通った刺激をもとに、対象物の表象が形成される場合の指示。

(ii) 観念指示用法：

発話時において主体の周囲に対象はないが、海馬などの働きによって想起された記憶をもとに、対象物の表象が形成される場合の指示（従来の文脈指示や記憶指示が含まれる）。

さらに、小川・野澤（2015, p.147）は、発話の場に無い対象を指す場合を想定して、その場合、指示者自信が述べた対象を指示する場合はコ・ソ・ア系どれもが可能で在ることを示した。

(1) 自分が述べた対象を指示する場合

A：三宮にいいイタリア料理店があるんです。

A1：この店はフォッカチオが美味しいんです。

A2：今度その店に行きましょう。

A3：あの店はフォッカチオが美味しかった。

A1のように、料理店がそこに存在しなくてもコ系が可能な理由として、1) 指示対象を話し手自身が話題に出したという優位性話、2) 「店」は話し手の領域に取り込めるといった2点を挙げ、そこ存在しない対象に対してコ系指示詞を使っても自然に聞こえることを示した。第3節で提示する自然会話でも、話し手が知識を有している対象に対して、コ系指示詞を伴う発話で対象を指すことができる。

2.2. 相互行為の中の指さしとは

相互行為とは、文字通りに言えば、参与者同士が行為を互いにやり取りすることである。ここで言う行為だが、例えば「おはよう」と言うことで挨拶であり、「それ、取って」といえば依頼という行為をする、それを行為と呼ぶ。Shegloff（2007）は、参与者が産出する行為には一定の秩序があるとし、それを「行為連鎖」と呼んだ。それは、話し手にとっては、聞き手の応答は直前の話し手の行為の反応であるので、話し手の発話やジェスチャーを聞き手がどのような行為として理解したかは、聞き手が次にその反応として産出する行為に観察可能な形で現れると言うわけだ。これが、相互行為秩

² 指さしにより、話し手は対象へと聞き手の注意を向けさせ、同時に注意が共有されていることを認識したときに、指さしの指示は達成したと見做される。ここに、話し手、聞き手、対象間の三項関係が成立する。これを発達心理学では「共同注意」(joint attention) (Tomasello, 1999) と呼ぶが、これは「環境に接続された身ぶり」では、「参加者同

士の間」の

2.3. 会話分析による指さしの分析

多くのジェスチャー研究では、発話と指さしとの関係だけに注目しがち(喜多, 2002 など)であるのに対し、会話分析による指さし研究は、参与者らの身体的配置や周囲の環境や行為の志向も取り込んで、行為の達成や連鎖の構成を研究してきた。

参与者が用いるジェスチャー、視線、表情、姿勢、人工物の扱い、発話の形式や韻律が包括的に行為を構成することを、数多くの事例で主張したのが Goodwin (2000, 2003a, 2003b, 2007 等) である。Goodwin (2007, p.195) は、ネットで買ったミキサーの部品が欠けていた為に作動しないことを説明するのに、指示詞を伴う発話とジェスチャーだけでなく、手に持ったミキサーも含めてやっと思説明可能になることを、段階的に示した。人工物も含めた全ての資源のうちの、どれひとつ欠けても行為は構成されないというわけだ。金水(1999)が扱った「マッチ→店」を「誘い」という行為として捉えたならば、コ系指示詞だけでなく、ジェスチャーや視線など、全ての資源が記述に取り込まれなければならない。

Goodwin (2000, 2003, 2007) は、このような直示的な指さしによるジェスチャーを「状況に埋め込まれた相互行為的な活動」(situated interactive activity) と呼び、Goodwin (2003b, p.2) では、(i) 指さしを行う話し手の身体 (ii) 指さしに伴う発話 (iii) 対象の特徴 (iv) 参与者同士の志向と対象への志向² (v) 進行中の活動などが周囲の環境を取り込んで、それぞれが関連することで、指さしが「環境に接続された身振り」(Environmentally coupled gesture)³のひとつになることを主張した。

3. 分析

以上の先行研究を踏まえて、本稿では断片(2)のデータを分析する。断片(2)は、在中国のプラスチック製品を製造する日系企業内で収録したデータである。品質管理部の巡回員⁴は、異常品検査のために工場内を

士の間」の志向と対象への志向」に近いものと思われる。

³ 「状況に埋め込まれた相互行為的な活動」と「環境に接続された身振り」はいずれも西阪(2008)による訳である。

⁴ 製造業にとって、不良品の出荷は最も避けなければならない。その為に同工場では機械の担当者とは別に数人の検査専門員が巡回する。巡回員は、異常を発見すると製造担当者に報告し、その後浦課長に報告した

巡回していた。そのとき、63号製造機で温水洗便座の部品4個に白化異常⁵を見つけた。巡回員は上司の浦課長に報告する前に製造現場の太課長に先に報告している。この断片の前に太課長は63号製造機を開けて金型をチェックし、白化の原因を見ている(L13)。金型内のガスが充満して、ガスが昇華して白い粉となり金型排気口を詰まらせていた。そのため、製造物の表面に白化が生じていた。太課長が白化の原因を同定した頃、浦課長が現場に駆けつけ、太課長に異常品への対処を依頼する。データ(2)はそのときの会話である。

- 01 浦: 阿|太, 嗯, 找你确认个 事项我们 | 23号机
| 製品握ったまま | 機械を指す
- 02 倣这个 | 产品的時候 在|巡視的[時候发现
| 手を上に | 製品握っている。 |
- 03 | 这一块地方 | | 有白化状 |
| 白化部分指してつつく[写真1] | 太を見上げる |
太さん, うん, 確認したい事項があります 23号機
でこの製品を作る時, 我々が巡視の時発見したのは
この箇所に白化があります。
- 04 太: [嗯
はい
- 05 浦: 你确认|一下, 哦呢也|不是说每个都有 刚才
| 身体は機械方向|機械の方に手
06. | 机台上这边下来 | 4个,
| ベルトに手を置く | 太を見る
確認してください。全部あるわけじゃないです
ちょうど機械から出てきた4個の製品
- 07 | 我随便看了一下, 4个当中有这么 | 一个也不
| 製品を見る 突いて | 太を見る
08. | 是每个都有,
| 前方を見る
太 | 浦を見る
適当に見たら, 4個の中の1つに白化がありました。
全部にあるわけじゃありません。
- 09 浦 你看看 是[什么原因。
見てください。これは何が原因ですか。
- 10 太: [| 我来跟进一下
| 工場内を見渡して→製品
私がやります
- 11 浦: | 改善[一下=
| 太→製品を見る 改善して下さい。
- 12 太: | 刚刚我看了一下 | 模具上面 看看

⁵ 白化異常とは、金型内に流し込まれたプラスチック剤からガスが発生して、それが製品を乳白色に変色させる。この部品はもともと白色だが、製品の一部(浦が指している所)が乳白色になっていた。

- | 工場内→製品を見る | 製品見ながら身体後退
13 → | 这个地方白掉了
| 製品の白化部分の上に小指→円[写真2]後退
さっき私は金型の上部を見ました, 見て, 見て。
この箇所が白くなっていた
- 14 | 排气槽 都 堵掉了
| 製品を見ながら身体後退
ガスベントが 全部詰まっています。
- 15 浦: 那 | 行, 我们 [模具 打开 看看。
| 右手を上げて機械の裏の方向を指す
じゃあ, 私たちは金型を開けてみましょう。
- 16 太: [现在 现在清扫一下
今, 清掃しますよ。

この後二人は63号機の反対側に行き、金型が入っているところを開けて、金型を見る。太は楊枝のような棒で掃除を始める(写真3)。

写真1.
浦が白化部分を指す



写真2.
太が白化部分に触らないで
小指で空間に円を描く。



浦は発話に沿って製品や製造機に視線を送り、同時に指さしも行なっている。L6, L7, L8で浦は、太に説明のポイントのところで太を見る。一方の太はL8で浦をチラッと見るものの、L10から工場内を見渡し、時々製品を見て浦と共同注意するが、浦には殆ど視線を向けない。太は、担当者を探すことにも志向しているためか、何度も工場内を見渡す。これは、それぞれの志向の異なりに起因している(Streek 2017)。また、L13における太の指さしは特徴的だ。製品を触らずにその上空に円を描きながら「この箇所が白くなっていた」と言う。製品の白化は浦が既に述べている。太の言う「白い」は製品ではなく、「この箇所」である。太が製品を触らないのは、製品とは別の「白い」対象を指しているからだ。ここでの太の対象は、製品の白化部分に接触している金型の特定の箇所である。そのことは、浦も理解してい

ると見えて、「ガスベントの詰まり」(写真4)と聞いて、一緒に製造機の金型を見に行く。浦が持っている製品にコ系を使うのは、自分の知識という優先性によるコ系指示詞の使用であろう(小川・野澤, 2015, p.147)。

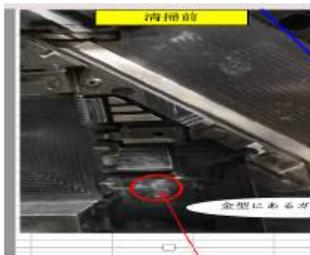
この場に金型がないにも関わらず、「この製品の白化部分が当たる金型のある特定部分」を指して、「この部分」とだけ述べている。それが可能なのは、製品に触らないで円を描く特徴的な指さしである。「この部分」が向こうにあるからだ。そう言いながら身体を後退させることも、「この部分」をこれから見に行く志向を示している。

このように、太はコ系指示詞の発話、指さし、製品、身体を使って、白化の原因を浦に示した。浦は、それを理解したからこそ、一緒に製造機の裏側に向かい、太が金型のベントの汚れを落とすのを後ろで見守るのである(写真3)。

写真3. 金型を拭き取る太



写真4. 金型のガスベント



この現象は、円を描く指さしが、発話、それぞれの活動の志向性、そして人工物のプラスチック製品と結びつくことで、「環境に接続された身振り」(Environmentally coupled gesture) になったところで、その対象が金型の白化になったのである。

また、見逃してはならないのは、太と浦が「製造現場の管理職として異常品の対処をする」と言う共通の義務に携わっているという事である。西阪(2001, p.62)が指摘するように、指さされた対象を見erると言うことは、行為や活動の中でそれを見るのであって、見ることが活動を構成している。太はあまり浦を見なかったが、浦が何をしたいかは理解している。浦は、「原因究明を即時やって欲しい、いつまでも生産を止めないで欲しい」という立場でここにきている。そのことを太も理解している。2人の義務と立場を理解すると、この断片はさらに理解できる。

4. 本研究の今後の見通し

本稿では誌面の都合から事例を1つに留めたが、コ系指示表現(この、ここ、こう)を用いて、実際にはそこに存在しないが、存在するかのように参与者間で共有する事例が他にも数例ある。グラフや表に表象されるものを指して、そこには無い発電量が指さしの対象になるケースなどである。但し、それら対象の「見えなさ」や「存在しなさ」の程度が異なることから、程度の差に着目して、その理由や背景を事例の分析から見極めていきたい。

文献

- Goodwin, C. (2000). Action and embodiment within situated human interaction. *Journal of Pragmatics*, 32-10, 1489-1522.
- Goodwin, C. (2003a). The body in action. In Justine Coupland & Richard. Gwyn (eds.). *Discourse, Body and Identities*, 19-42. Palgrave Macmillan.
- Goodwin, C. (2003b). Pointing as situated practice. In S. Kita (Ed.), *Pointing: Where language, Culture and Cognition Meet*. 217-241. Lawrence Erlbaum.
- Goodwin, C. (2007). Environmentally coupled gestures. In S. D. Duncan, J. Cassel, & E. T. Levy (Eds.), *the Gestures and Dimension of Language: Essays on honor of David McNeill*, 195-212, John Benjamins Publish Company.
- 喜多 壮太郎 (2002). ジェスチャー: 考えるからだ. 金子書房.
- 金水 敏 (1999). 日本語の指示詞における直示用法と非直示用法の関係について 自然言語処理, 6-4, 67-91.
- 金水 敏・田窪行則 (1990). 談話管理論から見た日本語の指示語. *認知科学の発展*, 3, 85-115.
- Levinson, S. (2004). "Deixis." in Lurence R. Horn & Gregory Ward (eds.) *The Handbook Of Pragmatics*. Blackwell.
- 西阪 仰 (2001) 心と行為 岩波書店.
- 西阪 仰(2008). 分散する身体—エスノメソドロジ—的相互行為分析の展開 勁草書房.
- 小川典子・野澤元 (2015). 認知言語学論考(12) ひつじ書房.
- Shegloff, E. (2007) *Sequence Organization*. Cambridge.
- Streek, J. (2017). *Self-making Man: A day of action, life and Language*. Cambridge University Press.